

ジャニーズ事件の背後にあった芸能界の「闇構造」の解明 —— 芸能事務所とテレビ局の依存関係のネットワーク分析 ——

金 光 淳

要 旨

所謂「ジャニーズ事件」は、日本の芸能界とメディア産業の「闇の構造」に光を当てることになった。この背後にあった複雑な組織関係構造を詳しく探るため、ジャニー喜多川生存中の2018年第3クールの<テレビ番組とその在京放送テレビ局><テレビ番組とそれへの芸能人の出演><芸能人とその芸能事務所への所属>のネットワーク・データが、音楽番組、ドラマとバラエティー番組に関して収集され、4部グラフモデルによって社会ネットワーク分析（k-コア分析、中心性分析、コミュニティ解析、ネットワーク分離度分析）に附された。この過程で集計された<芸能事務所×テレビ局>のクロス集計から、平均強度からの十分な乖離度として定義された芸能事務所とテレビ局の関係強度が、両者の組織間依存関係の強度として測定された。この依存関係は、芸能事務所のテレビ局へのタレント送出関係と、テレビ局の芸能事務所からの受入関係に分解され計算された。得られた知見は以下である。1) 芸能界の「スモールワールド的」縮図が発見され、ジャニーズ事務所は芸能界ネットワークの「コア」を形成していた。2) 特定の事務所とテレビ局の依存関係は確かに見られ、とりわけエンタメ業界の中核を構成する「歌番組とドラマ」に強いフジテレビとジャニーズの間には、非常に強い相互依存関係が見出された。3) 圧倒的に番組数の多いバラエティーでは吉本興業の存在が大きく、芸能界の構造を単純なジャニーズ支配では語れず、吉本興業も日本テレビとの間に強い相互依存関係が見られた。つまり、熾烈なライバル関係にある日本テレビとフジテレビは、競争しつつも、タレント依存関係においてある程度「棲み分け」をしていた。4) 最後に、ジャニーズタレントの間には、他の芸能プロダクションに比べて同じ番組に出演しやすい内部結合傾向が見出された。

キーワード：ジャニーズ事件、性加害問題、エンタメ産業、芸能界、芸能事務所、テレビ局、依存構造、社会ネットワーク分析、ネットワーク分離指数、界の社会学

1. 問題の所存：「ジャニーズ事件」の流れと芸能界

ジャニー喜多川による所属男性タレントへの性加害と、それに関する姉のメリー泰子喜多川の事件隠蔽問題（所謂「ジャニーズ事件」）の初期の「表面化」は初代「ジャニーズ」のからんだ1967年の裁判であり、『女性自身』は「“同性愛”裁判」と報じている。この時ジャニーズ・メンバーは、性被害はなかったと「証言」している。しかし1988年にフォーリーブスのメンバーであった北公次が『光 GENJ へ：元フォーリーブス北公次の禁断の半生記』において性被害を暴露し、その後も告発本が続いた。それにも関わらず、この問題は芸能界では長年「公然の秘密」とされ、大きく報道されることはなかった。しかし1999～2000年に14回にわたって週刊誌『文藝春秋』が大きなキャンペーン報道を行い、これに反発したジャニーズ事務所との間で裁判沙汰になり、2004年の東京高裁の裁判では文春記事の重要部分を真実だと認定する判決が確定した。しかし大手マスコミは、ま

たもこの事実を大きく伝えて問題を顕在化しようとはせず、「大いなる沈黙」を守り続けた¹⁾。その背景には、本来これを報道すべき大手メディア（新聞社）とジャニーズタレントを使って視聴率を稼ぎたいテレビ局との資本関係の強さがあったことは言うまでもない。「権力に弱いマスコミ」もこれが元凶である（金光, 1994）。1980年代の光 GENJI から続いて、1990年代前半のSMAPのブレイク以来、TOKIO, V6, Kinki Kids, 嵐などの人気グループを次々と送り出し、芸能界での存在感が巨大になっていたからである²⁾。実際、在京テレビ局と大手新聞社の2022年の資本関係を見ると、毎日社新聞/TBS以外の間で強い資本関係があったことが分かる（図1）。

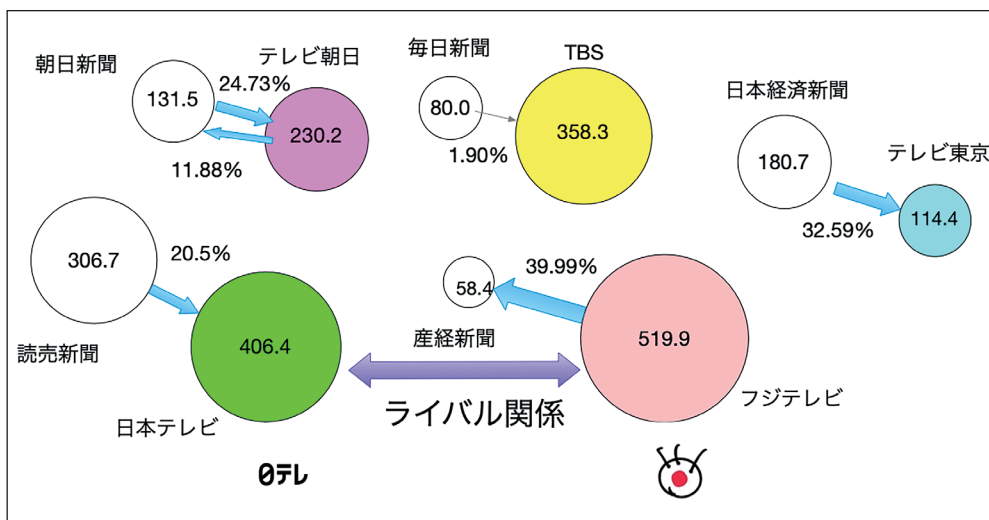


図1 テレビ局と新聞社の資本関係と売り上げ（2022年5月現在）

出所) <https://kigyolog.com/article.php?id=1629> から作成 円内の数字単位は10億円

注) 矢印は株式所有関係の方向、%は所有率を表す。

図1から、共に売上高も大きく長年ライバル関係にあった日本テレビとフジテレビの間で「確実に視聴率がとれる」ジャニーズタレントの綱引競争は熾烈であったことが容易に想像できる。周知のように、この「ガラパゴスの沈黙状態」を打ち破ったのが、2023年3月18日に英国BBCで放送されたドキュメンタリー番組 *This World* の *Predator: The Secret Scandal of J-Pop* という「黒船」報道番組である。この番組には、かつてキャンペーンを張った文藝春秋の記者や元ジュニアの性被害者

1) このあたりの経緯については、鹿砦社編集部（2023）『ジャニーズ帝国 60年の興亡』が詳しい。

2) 日本テレビでは嵐の櫻井翔が「NEWS ZERO」の、NEWSの小山慶一郎が「news every」のニュース・キャスターを務めていたということは、「ジャニーズ報道を控える」と示す象徴的な事実であろう。ちなみに、両者ともに慶應大学卒と明治大卒（総代）の「高学歴ジャニーズ」として知られている。欧米のテレビ局では「芸能人」がキャスターを務めることは、*Saturday Night Live* などのコメディイヤーの中ではあるが、通常見られない現象で、ましてや「アイドル」では全く考えられないことである。

も複数登場するが、ジャニー喜多川による長年にわたる所属男性タレント（候補）に対する性加害を全世界に向けて報道することになった。これを受けた4月12日の日本外国特派員協会での記者会見では、元ジャニーズJr.のカウアン・オカモト氏が実名・顔出しで被害を明かすと、連日ワイドショーなどでも取り上げられ、これを「容認してきた」テレビ局や新聞社を中心としたメディアに対する批判も高まった。7月24日から訪日調査を開始していた国連人権理事会の作業部会は、8月4日に「日本のメディア企業は数十年にもわたり、この不祥事のもみ消しに加担したと伝えられている」という厳しい内容の声明を出した。サントリーや日産自動車など、新規CM契約を結ばないことを表明する企業も現れた。またジャニーズ事務所が設置した「外部専門家による再発防止特別チーム」は8月29日に調査報告書を公表し、これを受けて民放テレビ局5社は、それぞれ「反省」の声明文を出した。また在京各テレビ局は9月11日放送のNHK「クローズアップ現代」をはじめ、11月までに独自の検証番組を放送した。

世論の批判の高まりの中で、9月7日に開かれた記者会見では、ジャニーズ事務所側は性加害の事実を全面的に認め、謝罪するとともに、被害者の補償と救済を行うことを約束した。そこでは所属タレントトップの東山紀之氏が新社長に就任し、藤島ジュリー氏は社長を引責辞任したものの代表取締役役に留まることが表明された。というのは、事務所株式は依然として藤島ジュリー前社長が100%保有していたからである。そのため、その時には「ジャニーズ事務所」の社名も変更はしないとの発表もなされた。

しかし世間の批判に押されたのか、10月2日に開かれた記者会見では東山紀之社長、井ノ原快彦副社長の新体制が発表され、社名を「SMILE-UP. (スマイルアップ)」に変更して被害者救済・補償業務に特化し、補償完了後は廃業するとした。その後12月には、タレントのマネジメントを行う新会社として「STARTO ENTERTAINMENT (スタートエンターテインメント)」を設立し、ソニー・デジタルエンタテインメントの社長を務めたコンサルティング会社社長の福田淳氏が社長に就任することが発表された。この間テレビ局側では、テレビ東京とNHKが旧ジャニーズ事務所のタレントを新たには使用しないとの声明を出した³⁾。この「自粛」を受けてNHKは年末恒例の紅白歌合戦では旧ジャニーズのグループは一つも選ばれない「異常事態」となった。また年末恒例のジャニーズ・カウントダウンコンサートも見送りとなった。

24年4月にはSTARTO ENTERTAINMENTが本格始動し、22年のフジテレビのドラマ「Silent」以来、超人気者となった目黒蓮を要するSnow Manや櫻井翔（個人としてマネジメント契約）、ベテランの木村拓哉をはじめ、いまだに大きな存在感を示しており、まるで何事もなかったかのように多くのSTARTO ENTERTAINMENTタレントが、相変わらず日本のお茶の間、コンサート会場、映

3) 他のテレビ局は基本的にジャニーズタレントを使い続けた。同時にジャニーズ事務所からのタレントの独立も見られ、元ジャニーズの滝沢秀明を代表とするTOBEに何人かのタレントが移動したが、多くの旧ジャニーズタレントはSTARTO ENTERTAINMENTにとどまった。また関ジャニ∞はSUPER EIGHTへと変名し、彼らの冠音楽番組の名前も「関ジャム 完全燃SHOW」から「EIGHT-JAM (エイトジャム)」に変わった。

画館などを賑わしている。以前は「白くくり抜かれていた」不自然な表紙の雑誌が書店からなくなったこと以外、大きな変化はないとも言える。

事件から1年以上が経った2024年10月16日、NHKはSTARTO ENTERTAINMENTの所属タレントの新規起用を再開する方針を発表した。それに合わせたかのように、直後の10月20日にはNHKスペシャル番組「ジャニー喜多川“アイドル帝国”の実像」が放送された。そこでは米国時代の喜多川姉弟のヒストリーも放送され、元所属タレントや元事務所職員、元NHK理事に対するインタビューも含まれていた。番組中には、性加害告発本『ジャニーズの逆襲』を1989年に出した初代「ジャニーズ」のメンバー中田良（故人）の姉が、補償業務を引き継いだSMILE-UP社の補償本部長に弟への謝罪を求めた場面があり、本部長が（NHK番組の取材中であることを知らずに）電話口で「本で会社が痛めつけられた」「心の底からお詫びはできない」と答えていた。これには批判が殺到したようで、SMILE-UP社は25日に、本部長を解任したとの報道があった（朝日新聞デジタル、2024年10月26日）。そして直後に発表された24年末の紅白歌合戦出場歌手・グループのリストには、今年もSTARTO ENTERTAINMENTの所属タレントの名はなかった⁴⁾。

この論文は、このような「ジャニーズ事件」の一連の流れを踏まえつつ、時期をジャニーズ全盛期に遡って番組データ、出演者データなどを収集し、芸能界においてジャニーズ事務所とテレビ局は一体どのような「深い関係」にあったのかを、ネットワーク分析の手法を用いて計量的に明らかにすることである。この論文では以下の5つの仮説を立てて分析を行う。

仮説1 ジャニーズは、芸能界のネットワークの中核＝コアを形成している。

仮説2 芸能界のネットワークでジャニーズ事務所の中心性は抜群に高い。

仮説3 ジャニーズと各テレビ局との間には強い依存関係が存在する。

仮説4 芸能界では日本テレビとフジテレビの熾烈な競争が見られ、ジャニーズタレントの「争奪戦」が見られる。

仮説5 ジャニーズタレントは、他の芸能プロダクションに比べ同じ番組で共演しやすい。

ここではBourdieu（1980, 1992）に基づいて、特有の闘争ルールを有する（参入障壁が小さい、タレント移籍に関する拘束権など）「champ界」（＝「場 field」）として捉える。この論文では、比較

4) 朝日新聞（11/26日朝刊）によれば、NHKは交渉を持ちかけたが、（あるNHK幹部は）「出演するかの判断するボールは、スタート社にあった」とし、この報道番組が少なからず影響したのではないかとの見方を示している。ただ枝分かれしたTOBEからは初めて所属男性グループNumber_iが選ばれた。付け加えれば、番組の最後の部分において、NHKでジャニーズ主役の大河ドラマ制作などに関わり、後にNHK理事となり、現在はSTARTO ENTERTAINMENT顧問を務める若泉久朗氏が、NHK側の直撃インタビューに対して「なんで僕なんですか。仲間じゃないですか。」と応答している場面はNHKの検証報道としては「かなり踏み込んだ」内容になっており、興味深い。この番組はNHKオンデマンドにおいて、執筆時には視聴可能である。

的資本規模が小さい事業者が「人材」を育て上げ、放送業界やエンターテインメント産業、音楽産業に「タレント」という商品売り込む競争的な界＝＜芸能界＞を想定している⁵⁾。ただし、ここで想定されるのは、社会的カテゴリー間の多重関係でとらえられる Bourdieu 流の「社会空間」ではない⁶⁾。図2のような、個人プレイヤーと組織プレイヤーが複雑に絡み合う多次元的交換関係のネットワークから構成される「芸能社会ネットワーク」としてとらえられる。また、この研究では方法論的にも多重対応分析ではなく、社会ネットワーク分析が活用される。なお、この論文での社会ネットワーク分析はすべて、「最強の数学アプリケーション」として世界的に評価の高い *MATHEMATICA 14.1* (Wolfram, 2024) の内蔵関数と独自に作成されたプログラムによって実行された。

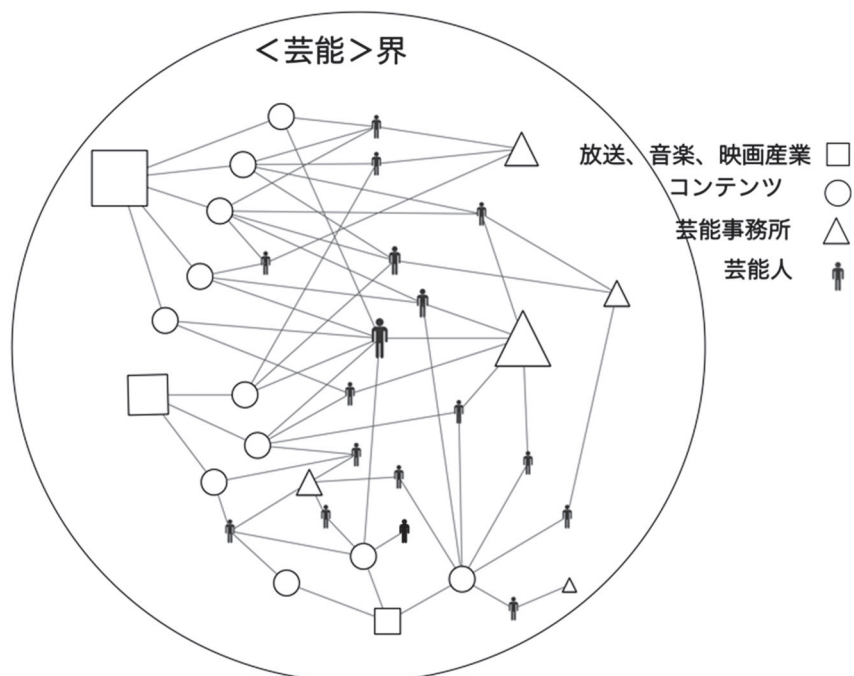


図2 「界」としての＜芸能界＞のモデル

5) 2,000 社ほど存在し、社員数（タレントは除く）10 人未満の会社が 9 割を占める一方で、社員 100 人を超える企業は 1% ほどに過ぎない。そのほとんどは東京に所在する、いわゆる「東京一極集中産業」とであるとされる。 <https://business.nikkei.com/atcl/report/16/051500219/062100002/>（最終訪問日 2004 年 12 月 15 日）

6) もちろん、より広い概念として「アート・ワールド」(Becker, 1982) に対応する「芸能ワールド」を考えることができる。その構成員としては、上記以外にもタレントのファン・クラブや「追っかけ」も含まれるほか、新聞社や雑誌の芸能記者や芸能評論家なども含まれる。

2. 芸能界の全体構造，コア構造はどうなっているのか？

2-1 データと方法

分析のためのデータは、2018年（ジャニー喜多川が2019年7月9日死去したため）第3クールの在京6大テレビ局の歌番組とドラマ，バラエティー番組が関東の番組表などから収集された。この時期は年末恒例の歌番組が多く，テレビ局と芸能事務所双方にとっても最も売上高が見込めるクールだからである。その後に番組のホームページなどから出演タレントを特定し，さらにそのタレントの（当時の）所属芸能事務所を特定した。それは，1) 芸能事務所520社とタレント1494人；2) タレントと出演553番組；3) 出演番組とテレビ局（6社）の4種類のノード（社会ユニット）の間の「対データ」を接続関係「エッジ」に変換して構成される複合グラフ（＝ネットワーク）である。つまり，これらは芸能事務所集合 O ，芸能人集合 E ，番組集合 P ，テレビ局集合 T の間に定義される G_{OE} G_{EP} G_{PT} の2部グラフ（*bipartite graph*）の連結複合体として構築された。（図3）。

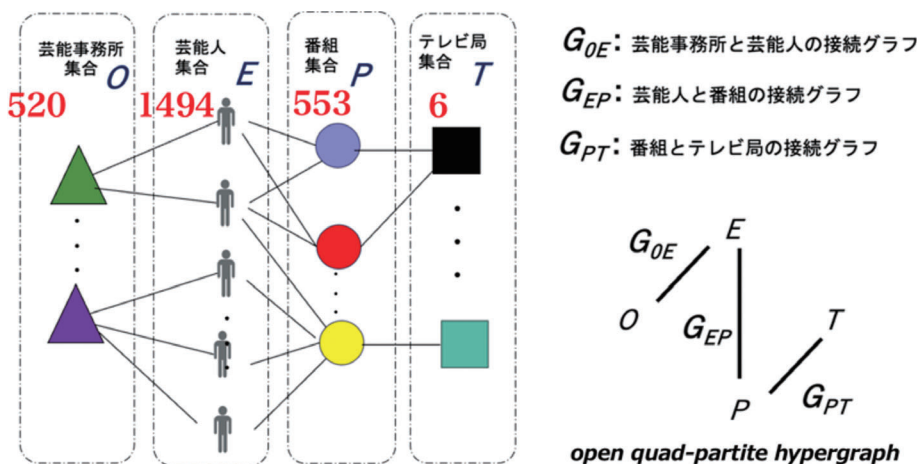


図3 4種類のノードからなる芸能界の4部グラフモデル

注) 数字は各ノード数（各集合の要素数）を表している

基本的には2部グラフ（2モード・ネットワーク）の解析を4部グラフに延長したネットワークであるが，ここでは役員兼任ネットワーク分析などで行われるような「組織間ネットワーク」「タレント間ネットワーク」への1モード化（Breiger, 1974）は即座には行わない（最終節では行う）。というのは4部ネットワークをそのまま解析することにより，多層的な社会ユニット間の相互作用を分析できるからである。

2-2 芸能界ネットワークの全体構造はどうなっているのか？

このネットワークモデルは，それぞれのグラフが鎖状につながるツリー状なので，ここでは開4

部構造ハイパーネットワーク *open quad-partite hypergraph* と名付けよう。このハイパーグラフでは図4のようにノードが分布しており、数の多いバラエティー番組が全体としては中央でクラスターを形成し、その右の端にドラマが位置し、多くの芸能事務所がそこに群れるような位置にある。これに比べると音楽番組は相対的に別のクラスターを左に形成していることが分かる。

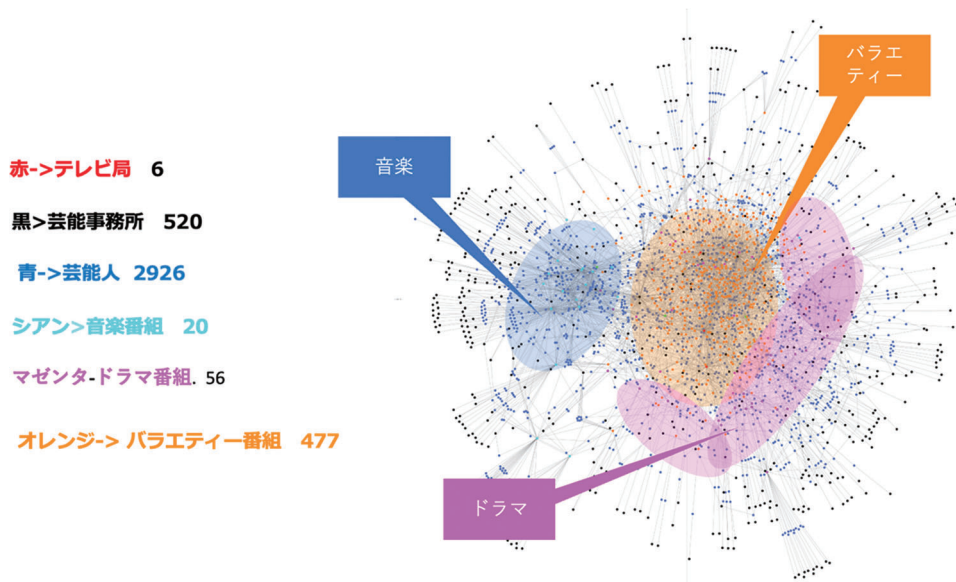


図4 2018年第3クールの芸能界全体のネットワーク構造

これをコミュニティ解析すると、図5のように綺麗にスペクトルを描くように分解され、中心にNHKクラスターが位置し、テレビ朝日、日本テレビ、TBSは大きなクラスターを形成し、フジテレビとは対極に位置していることが分かる。ここでは、テレビ東京は左端に位置する⁷⁾。興味深いのは、＜ジャニーズやアミューズからなるクラスター＞は＜フジ・クラスター＞と＜NHKクラスター＞の中間に位置し、先の＜テレ朝一日テレ-TBSクラスター＞とはやや距離があることである。これはフジテレビと日本テレビの微妙な位置関係を暗示している。

7) テレビ東京はかつて番組のスタイリストが若手ジャニーズタレントを連れまわし、女子大生と「乱痴気騒ぎ」を起こして週刊誌に報道された事件で、ジャニーズ事務所＝メアリー喜多川からタレント出演を断られ続けたという事情があると思われる（NHK番組「ジャニー喜多川“アイドル帝国”の実像」での元テレビ東京のジャニーズ事務所担当者の証言）。

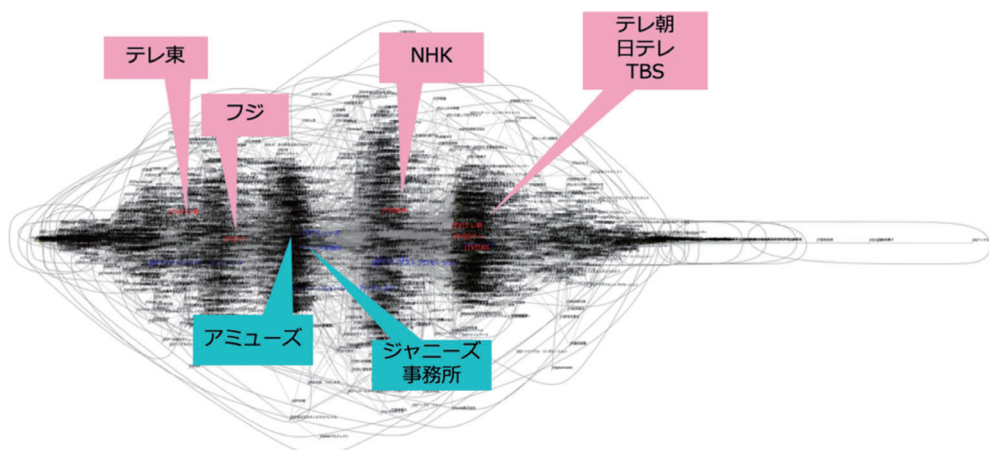


図5 2018年第3クールの芸能界ハイパーグラフのコミュニティ解析

2-3 ジャニーズは芸能界のコアを形成しているのか？

次に仮説1を検証するために、 k -コア概念を使用して、このネットワークにおけるコア構造を探り出してみよう。 k -コアなグラフ成分とは、全体のネットワークの中で、全てのノードが次数=選択数 k 以上（最低 k 以上）で繋がっている部分グラフのことである。このとき、全体の連結グラフは次数1のレベルで繋がっているので、1-コアであることは容易に理解できよう。手順としては、 k 値を2から始めて1つずつ変化させて「粗視化」しながらその時のグラフをあぶり出していくが、どこかの段階で k を1つ増加させると、これ以上は部分グラフが「消滅」して求められなくなる k 値が存在する。そのときの k -コアを「極大な k -コア部分グラフ」という。

2から始めて、全部のテレビ局が含まれるという意味では最小の k -コア部分グラフなのは、4-コアである(図6)。ここには、関東芸人専門のプロダクションである人力舎(オアシズ, アンジャッシュなどが所属)を除いて、ジャニーズ事務所, 吉本興業, LDH, ソニーミュージックアーチスツ, ワタナベエンターテインメント, ホリプロなどの知名度のある芸能プロダクションが含まれる。ある意味でこれがすべてのテレビ局が短い距離で繋がっている最少レベルの「芸能スモールワールド」「芸能界の縮図」と言ってよいだろう。

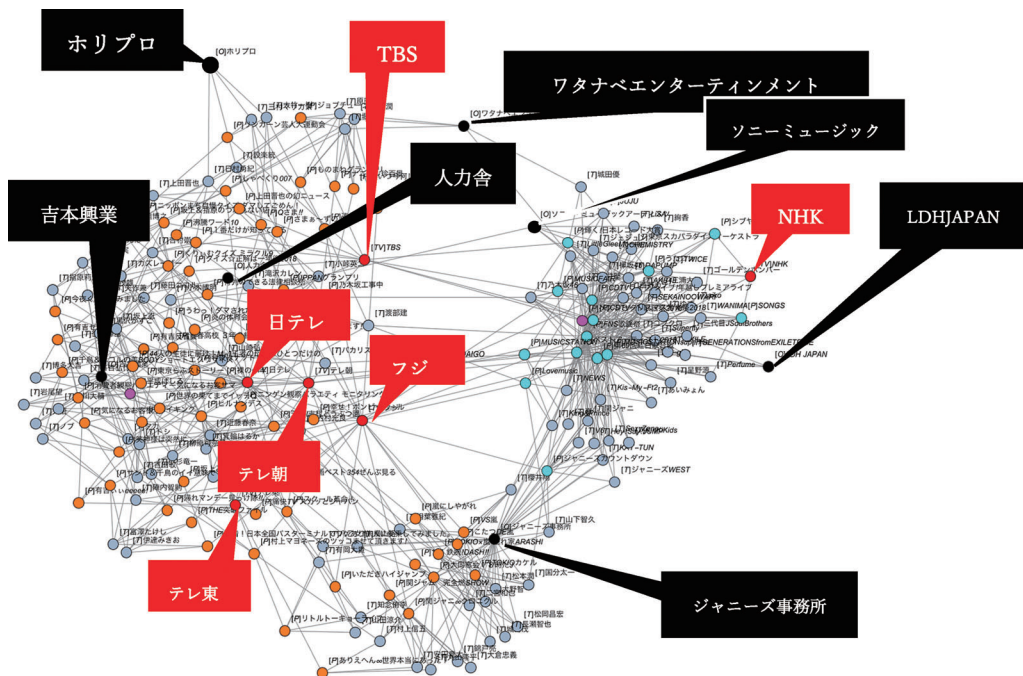


図6 芸能界ネットワークの4- コア部分グラフ=芸能界の縮図ネットワーク

この「芸能界縮図ネットワーク」をコミュニティ分解してみると、4つのクラスターに分割される(図7)。最大のクラスターである<クラスター1>は、日本テレビ、フジテレビ、TBS、テレビ東京の4つのテレビ局を含み、バラエティー番組とそれらに出演するタレントと彼ら/彼女らの所属する吉本興業、ホリプロ、人力舎などの芸人系プロダクションを含む89のノードから構成される。<クラスター2>は57のノードから構成され、音楽番組とそれに出演する複数のジャニーズ・グループを含むタレントでNHKと一部のタレントが所属するソニーミュージック・アーティストが含まれる。<クラスター3>は「嵐=ジャニーズクラスター」と名づけてもよいクラスターで、嵐や嵐メンバーのジャニーズタレントの出演するバラエティー番組が中心となって構成され、33ノードからなる。<クラスター4>は、<クラスター3>の番組にも出演する城田優(ワタナベエンターテインメント所属)も含まれる19のノードからなる「こじんまりした」クラスターで、テレビ朝日とワタナベエンターテインメントと深い関係のあるバラエティー番組が中心となって構成される。

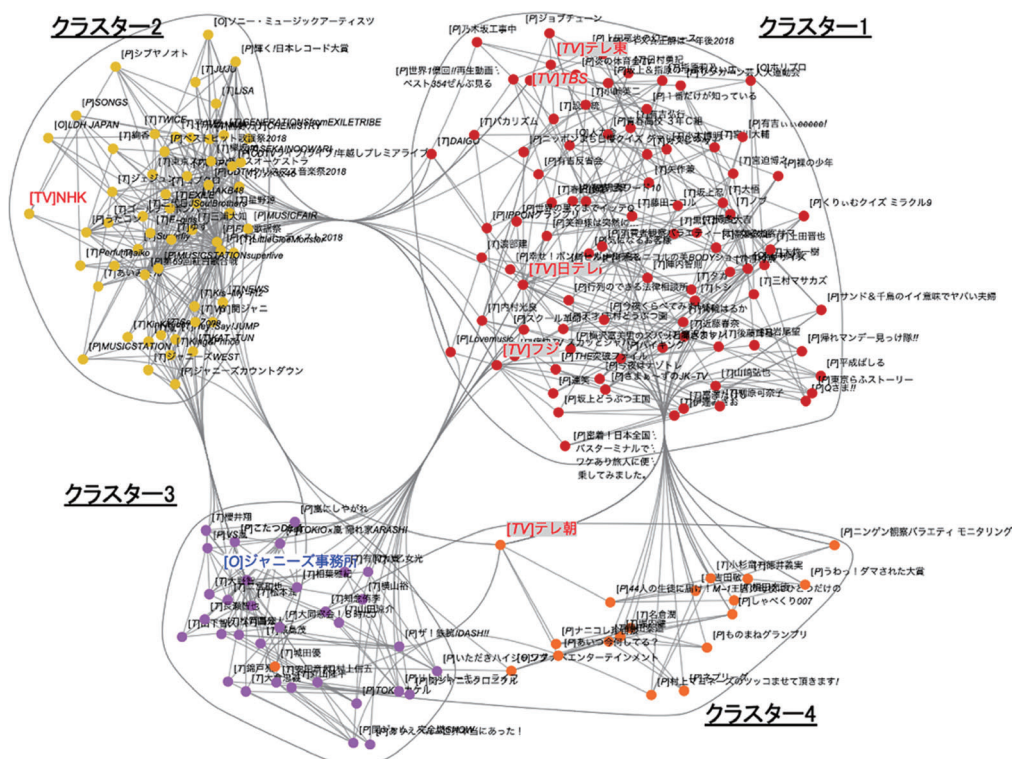


図7 芸能界の縮図ネットワークのコミュニティ分解

この部分グラフをさらに詳しく中心性分析した結果から(表1)、激しいライバル関係にあるフジテレビと日本テレビの近接中心性がともに高く、両テレビ局の覇権争いがここに凝縮的に表現されていると考えられる。芸能プロダクション別ではジャニーズ事務所の中心性は圧倒的であり、単体では首位に立つ吉本興業をかなり引き離している。番組に関しては、この時期の性格上、音楽番組の中心性が高く、またタレントでは、この年活躍した他の歌手やグループがくるものの、ジャニーズ勢の総合的(グループとして集計した)中心性は圧倒的であることが分かる。

表1 4-コア部分グラフ (芸能界縮図ネットワーク) のノード中心性

ノード (事務所)	度数	媒介値	距離中心性	ページラング	つづき				
					度数	媒介値	距離中心性	ページラング	ページラング
[O]ジャニーズ事務所	31	1981.3	0.323	0.147	[T]近野カネ	12	248.0	0.337	0.505
[O]吉本興業	19	958.1	0.286	0.651	[T]DAPUMP	11	144.8	0.334	0.492
[O]ユニー・ミュージックアーティスト	7	100.7	0.274	0.509	[T]カネ板46	11	355.0	0.342	0.497
[O]アパベエンターテインメント	5	121.6	0.263	0.494	[T]神坂46	10	125.6	0.334	0.488
[O]LDH JAPAN	4	1.5	0.252	0.482	[T]LittleGleeMonster	9	218.8	0.335	0.487
[O]カリプロ	4	54.5	0.238	0.492	[T]NEWS	9	257.5	0.354	0.481
[O]ハガネ	4	81.6	0.281	0.493	[T]コプロ	9	115.4	0.332	0.488
ノード (テレビ局)					[T]AKB48	8	63.9	0.331	0.478
[N]日テレ	23	3402.8	0.400	0.673	[T]EXILE	8	97.4	0.331	0.484
[TV]フジ	20	2854.4	0.404	0.636	[T]Kis-My-Fit	8	213.7	0.354	0.477
[TV]テレビ朝	14	1812.6	0.351	0.589	[T]タカ	8	240.4	0.304	0.530
[TV]BS	12	1229.4	0.328	0.560	[T]フジ	8	86.4	0.331	0.481
[TV]テレビ東	6	240.2	0.275	0.520	[T]博井朋	8	309.5	0.336	0.496
[TV]NHK	4	11.6	0.251	0.475	[T]E-girls	7	97.6	0.327	0.487
ノード (番組)					[T]King&Prince	7	153.1	0.341	0.482
[P]大相撲	39	2056.5	0.372	0.147	[T]SEKAIKOWARI	7	48.1	0.329	0.474
[P]ベストアーティスト2018	37	2472.2	0.377	0.721	[T]Superfly	7	80.9	0.329	0.483
[P]MUSICSTATIONsuper	34	1374.0	0.341	0.709	[T]関ジャニ	7	154.9	0.354	0.473
[P]徳川組紅白歌合戦	24	639.4	0.320	0.630	[T]原田希実	7	129.3	0.289	0.528
[P]CDTVクリスマス音楽祭2018	21	467.1	0.322	0.596	[T]三浦大知	7	51.6	0.329	0.474
[P]CDTVライブ!ライブ!年越しプレミアライブ	21	453.7	0.327	0.604	[T]三代目J Soul Brothers	7	82.9	0.329	0.481
[P]ラッコン	17	162.4	0.291	0.580	[T]植染曜記	7	170.8	0.305	0.498
[P]ベストヒット歌謡祭2018	16	313.8	0.316	0.558	[T]内村光良	7	312.5	0.309	0.523
[P]ヒートアップデイズ	15	1195.8	0.353	0.605	[T]坪井堅	7	54.9	0.317	0.479
[P]ジャニーズカウントダウン	13	266.6	0.317	0.557	[T]堀内健	7	129.3	0.289	0.528
[P]大相撲全18時対	13	423.2	0.317	0.570	[T]名倉潤	7	129.3	0.289	0.528
[P]MUSICFAR	12	279.3	0.321	0.539	[T]嵐	7	156.8	0.343	0.478
[P]イキニヤ	11	681.8	0.333	0.558	[T]CHEMISTRY	6	53.9	0.327	0.473
[P]輝く!日本レコード大賞	10	305.8	0.314	0.541	[T]Hey!Say!JUMP	6	115.4	0.342	0.470
[P]TOKYO×夏×嵐ARASHI	9	416.3	0.307	0.542	[T]SexyZone	6	115.4	0.342	0.470
[P]LoveMusic	8	219.7	0.326	0.513	[T]TWICE	6	49.5	0.310	0.476
[P]天才志村ドラゴン	8	378.7	0.331	0.522	[T]TWANNA	6	67.8	0.327	0.478
[P]SONGS	7	22.6	0.259	0.509	[T]ジェジュン	6	40.6	0.301	0.478
[P]シンデレラ	7	24.3	0.258	0.509	[T]仲達みきお	6	94.1	0.283	0.516
[P]しゃべくり007	7	334.3	0.311	0.515	[T]佐藤健	6	172.0	0.296	0.510
[P]スターダム	7	357.5	0.321	0.519	[T]原利乃	6	73.1	0.264	0.523
[P]ジャニーズタレント	7	194.2	0.307	0.519	[T]松本潤	6	59.4	0.296	0.492
[P]ジャニーズタレントSHOW	7	139.2	0.296	0.520	[T]山本耕	6	166.1	0.288	0.520
以下省略					[T]山本浩久	4	35.1	0.286	0.472
					[T]山下智久	4	76.2	0.296	0.485
					[T]松岡崇弘	4	34.6	0.285	0.483
					[T]上田晋也	4	71.4	0.287	0.494
					[T]城島茂	4	57.4	0.283	0.474
					[T]大倉忠義	4	34.6	0.285	0.483
					[T]滝沢カレン	4	23.5	0.277	0.476
					[T]知念侑李	4	58.6	0.280	0.490
					[T]長瀬智也	4	76.2	0.296	0.485
					[T]藤田ニコル	4	92.8	0.286	0.493
					[T]博多大吉	4	65.0	0.286	0.482
					[T]堀田亮	4	62.3	0.278	0.488
					[T]榎本大輔	4	33.4	0.263	0.492
					[T]有田大貴	4	132.7	0.307	0.481

注) タレントの中心性の色付き部分は、ジャニーズタレントであることを示す。

次に5-コア部分グラフを求めると、さらに興味深い構造が得られる(図8)。このコア部分グラフでは、FNS 歌謡祭や紅白歌合戦などの各局の大型歌謡番組と、西野カナ、嵐や乃木坂46(この年初めてレコード大賞を受賞)、三浦大知などの「人気歌手やグループ」と彼らの何人かが所属する事務所であるソニーミュージック・アーティストが含まれ、右側に位置する大きなクラスターを構成している。これに加えてジャニーズ事務所とフジテレビをブリッジとして嵐と嵐の冠番組が左側にクラスター化している。フジテレビとジャニーズ事務所はこのコアの「強力な接着剤」となっている。

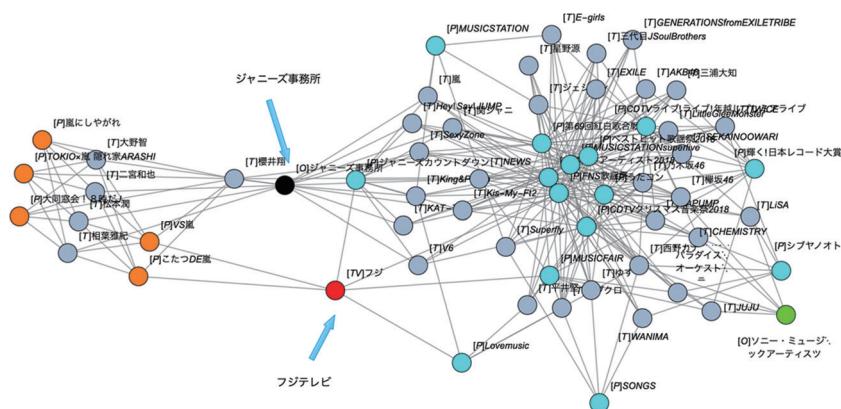


図8 芸能界ネットワークの5-コア部分グラフ

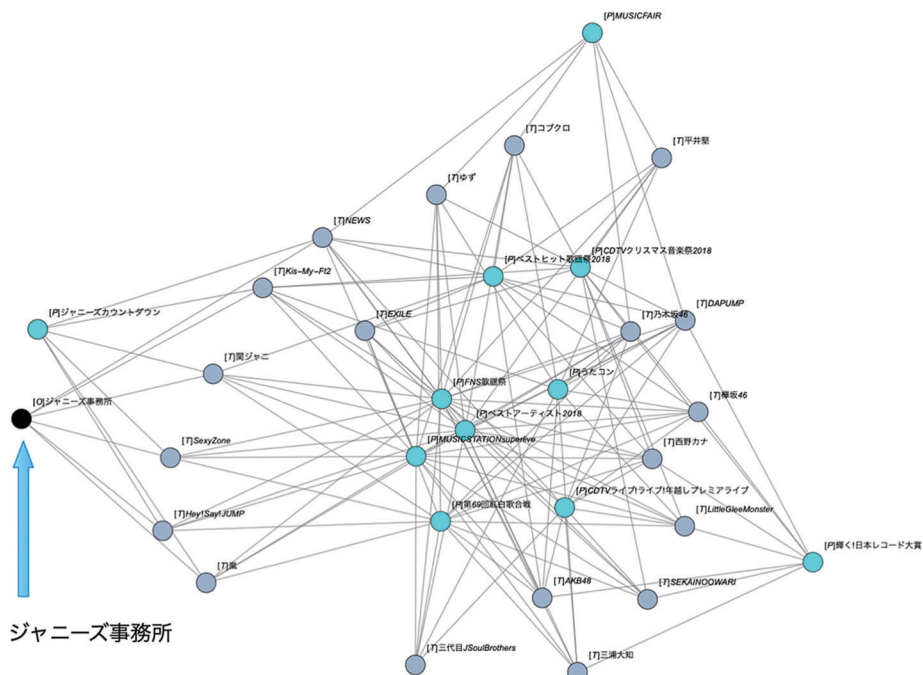


図9 芸能界ネットワークの6-コア部分グラフ

実は極大 k -コアとなる場合は k が 6 のときであり、図 9 のように求められた。ここには芸能事務所から唯一ジャニーズが含まれ、年末恒例の紅白歌合戦や FNS 歌謡祭などの大型音楽番組が含まれる。芸能界を象徴するとも言える歌謡界の最も繁忙なクールにおいて、ジャニーズ事務所とタレントは突出した存在感を示している。

以上の分析結果から、ジャニーズ事務所とジャニーズタレントが芸能界のネットワークの究極的なコアを形成し（仮説 1）、中心性の極めて高い集団であること（仮説 2）がともに示された。

3. 芸能プロダクションとテレビ局の「依存関係」は存在するのか？

3-1 芸能プロダクションとテレビ局の依存関係の測定

この節では、仮説 3「ジャニーズ事務所と各テレビ局との間には強い依存関係が存在する」を検証するために、「中心的な芸能プロダクション」と各テレビ局の依存関係強度を測定することを試みる。分析に使用する「中心的な芸能プロダクション」は、ここではタレントを 10 人以上送り出している上位 19 の芸能事務所（下図で示された吉本興業、ジャニーズ事務所からサンミュージックまでのプロダクション）と各テレビ局について以下の手順で「依存関係」を測定することにする。

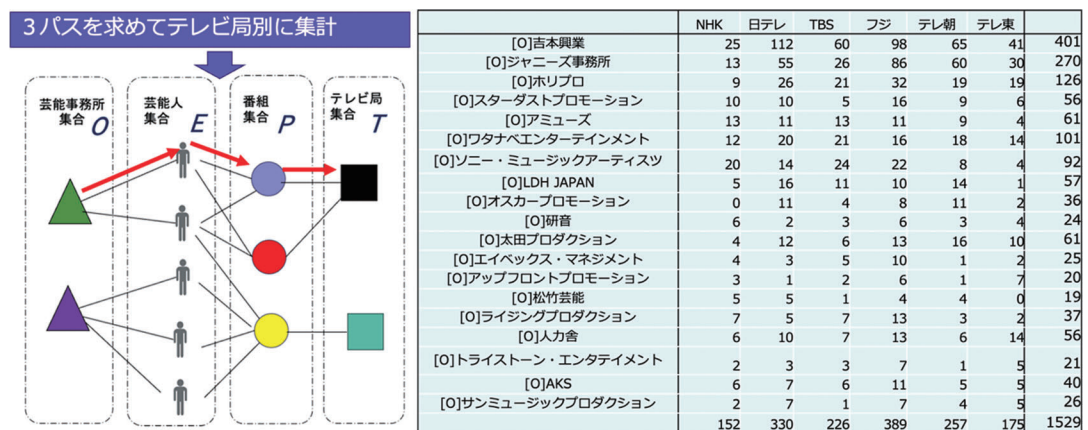


図 10 3 パスと芸能事務所×テレビ局の番組集計表

1) 3-パスを求める：まず、芸能界ハイパーグラフにおいて芸能事務所集合からテレビ局集合までの 3-パスを求め、ジャニーズ事務所からの各テレビ局番組への出演タレント数を集計する。この結果得られた集計表から得られる表の数値部分だけを行列を A とする（図 10 右）。

2) タレント資源の依存関係に注目し、2つの方向のある関係性に分ける：第一は、タレント事務所のテレビ局への関係性で、第二は TV 局の事務所への関係性である。前者は、 A 行列の行プロフィール、つまり各事務所が送出しているタレントのテレビ局別専有率として、タレント事務所側から各 TV

局への（送出的）依存関係強度で測定され、2つ目のものは、これとは反対で、TV局の事務所への関係性であり、A行列の列プロフィール、つまり各テレビ局が芸能事務所から受け入れているタレントの事務所別専有率が、各TV局のタレント事務所側への（受入的）依存関係強度として測定される。ここで注意したいのは、これらの2つの依存関係は、タレント事務所とテレビ局間の「出演関係」をそれぞれの立場から理論的に、（かつ分析的に）分解した2つのモメントで、両者は鏡合わせの関係にあり、「反転した意味」をもつような関係にある点である（図11）⁸⁾。また実践的にも、この依存度は事務所（テレビ局）側の力関係＝交渉力が強い場合にはタレントを「ねじ込んでいる（＝受け入れさせている）」関係になるが、弱い場合には「出させてもらっている（＝受け入れてもらっている）」関係性になり、一意には決まらない点である⁹⁾。ここにはタレントの「勢い」といった要素も働き、この三者の交渉と妥協によって方向の強さが決まってくると仮定できよう。

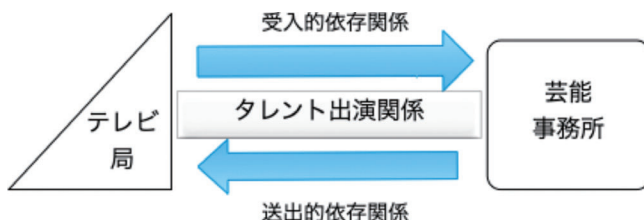


図11 依存関係の2モメントへの分解

3) 行列Aから送出的依存関係と受入的依存関係を求める：行列Aの行プロフィール（行集計し周辺度数で除する）と列プロフィール（列集計し周辺度数で除する）を求め、（2標準偏差だと極めて結合が少なくなるため）1標準偏差の乖離を閾値として二値化する（表2）。

8) このグラフでの矢印は「反直観的であり」、「受入」でも矢印は「受入先のテレビ局」から「送出先のタレント事務所」への矢印として表現せざるを得ない点は、注意を要する。図13も同様である。

9) さまざまな証言によれば、ジャニーズ事務所は前者の卓越的な立場にあったとされている。先のNHK番組「ジャニー喜多川“アイドル帝国”の実像」での元テレビ東京のジャニーズ事務所担当者の証言もその一つである。

表 2 行プロフィール（上）と列プロフィール（下）と二値化依存関係行列

	NHK	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	テレ東		NHK	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	テレ東
[O]吉本興業	0.062	0.279	0.150	0.244	0.162	0.102	1 標準 偏差 で 二 値 化	0	1	0	0	0	0
[O]ジャニーズ事務所	0.048	0.204	0.096	0.319	0.222	0.111		0	0	0	0	1	0
[O]ホリプロ	0.071	0.206	0.167	0.254	0.151	0.151		0	0	0	0	1	0
[O]スターダストプロモーション	0.179	0.179	0.089	0.286	0.161	0.107		0	0	0	0	1	0
[O]アミューズ	0.213	0.180	0.213	0.180	0.148	0.066		0	0	0	0	0	0
[O]ワタナベエンターテインメント	0.119	0.198	0.208	0.158	0.178	0.139		0	0	0	0	0	0
[O]ソニー・ミュージックアーティスツ	0.217	0.152	0.261	0.239	0.087	0.043		0	0	1	0	0	0
[O]LDH JAPAN	0.088	0.281	0.193	0.175	0.246	0.018		0	1	0	0	0	0
[O]オスカープロモーション	0.000	0.306	0.111	0.222	0.306	0.056		0	1	0	0	0	1
[O]研音	0.250	0.083	0.125	0.250	0.125	0.167		1	0	0	0	1	0
[O]本田プロダクション	0.066	0.197	0.098	0.213	0.262	0.164		0	0	0	0	0	1
[O]エイベックス・マネジメント	0.160	0.120	0.200	0.400	0.040	0.080		0	0	0	0	1	0
[O]アップフロントプロモーション	0.150	0.050	0.100	0.300	0.050	0.350		0	0	0	0	1	0
[O]松竹芸能	0.263	0.263	0.053	0.211	0.211	0.000		1	1	0	0	0	0
[O]ライジングプロダクション	0.189	0.135	0.189	0.351	0.081	0.054		0	0	0	0	1	0
[O]人力舎	0.107	0.179	0.125	0.232	0.107	0.250		0	0	0	0	0	1
[O]トライストーン・エンタテイメント	0.095	0.143	0.143	0.333	0.048	0.238		0	0	0	0	1	0
[O]AKS	0.150	0.175	0.150	0.275	0.125	0.125		0	0	0	0	1	0
[O]サンミュージックプロダクション	0.077	0.269	0.038	0.269	0.154	0.192		0	1	0	0	1	0
	NHK	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	テレ東		NHK	日テレ	TBS	フジ	テレ朝	テレ東
[O]吉本興業	0.164	0.339	0.265	0.252	0.253	0.234	1 標準 偏差 で 二 値 化	1	1	1	1	1	1
[O]ジャニーズ事務所	0.086	0.167	0.115	0.221	0.233	0.171		0	1	0	0	1	1
[O]ホリプロ	0.059	0.079	0.093	0.082	0.074	0.109		0	0	0	0	0	0
[O]スターダストプロモーション	0.066	0.030	0.022	0.041	0.035	0.034		0	0	0	0	0	0
[O]アミューズ	0.086	0.033	0.058	0.028	0.035	0.023		0	0	0	0	0	0
[O]ワタナベエンターテインメント	0.079	0.061	0.093	0.041	0.070	0.080		0	0	0	0	0	0
[O]ソニー・ミュージックアーティスツ	0.132	0.042	0.106	0.057	0.031	0.023		1	0	0	0	0	0
[O]LDH JAPAN	0.033	0.048	0.049	0.026	0.054	0.006		0	0	0	0	0	0
[O]オスカープロモーション	0.000	0.033	0.018	0.021	0.043	0.011		0	0	0	0	0	0
[O]研音	0.039	0.006	0.013	0.015	0.012	0.023		0	0	0	0	0	0
[O]本田プロダクション	0.026	0.036	0.027	0.033	0.062	0.057		0	0	0	0	0	0
[O]エイベックス・マネジメント	0.026	0.009	0.022	0.026	0.004	0.011		0	0	0	0	0	0
[O]アップフロントプロモーション	0.020	0.003	0.009	0.015	0.004	0.040		0	0	0	0	0	0
[O]松竹芸能	0.033	0.015	0.004	0.010	0.016	0.000		0	0	0	0	0	0
[O]ライジングプロダクション	0.046	0.015	0.031	0.033	0.012	0.011		0	0	0	0	0	0
[O]人力舎	0.039	0.030	0.031	0.033	0.023	0.080		0	0	0	0	0	0
[O]トライストーン・エンタテイメント	0.013	0.009	0.013	0.018	0.004	0.029		0	0	0	0	0	0
[O]AKS	0.039	0.021	0.027	0.028	0.019	0.029		0	0	0	0	0	0
[O]サンミュージックプロダクション	0.013	0.021	0.004	0.018	0.016	0.029		0	0	0	0	0	0

4) 3) の二値化依存関係行列をグラフ構造にする：図 12 は、表 2 の二値化した 2 つの隣接行列から構築した 2 つのネットワークである。

送出関係では（図 12 上）、フジテレビに対しては 13 社のうち 10 社のプロダクションが高い送出依存状態にあり、日テレは 5 社に過ぎないことが分かる。表 2 からジャニーズは他局に比べて圧倒的にフジに偏向しており、フジテレビはジャニーズ事務所以外からは「優越的に送出してもらっている」と解釈できる。逆にジャニーズ事務所はその力を利用して、タレントを多数「ねじ込んでいる」と解釈できる。両者は「相互強化的な関係」にある。

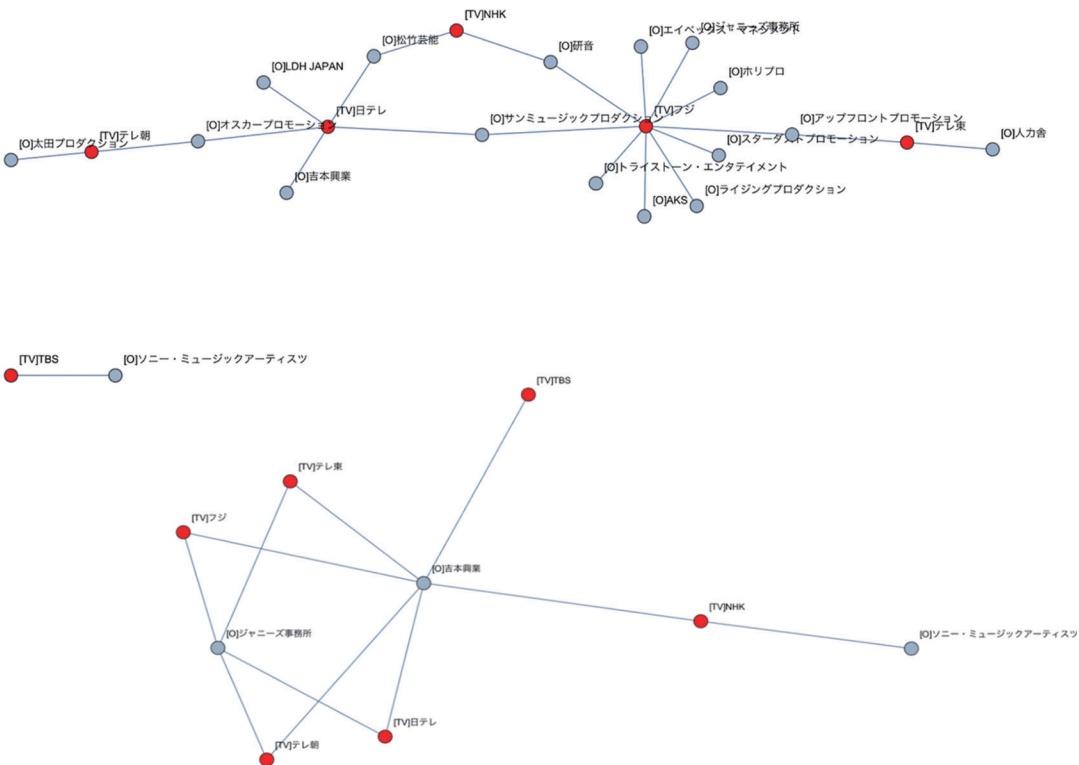


図 12 テレビ局と芸能事務所間の送出的（上），受入的（下）依存関係のネットワーク

逆に受入的依存関係（図 12 下）では，各テレビ局は吉本興業からの受入が卓越している．これに対してジャニーズはTBSとNHKを除く4局である．この裏事情はテレビ局関係者の証言を待つしかないが，制作費も安上がりで「手っ取りばやく」視聴率もとれるバラエティーに多数の「芸人」を出演させる傾向の強まった近年では，大量に芸人を抱える吉本興業がテレビ局にとって重宝されているためと思われる．音楽番組が少ない日本テレビは特にその傾向が強いと思われる（表 3）．

最後に両者を同時にネットワーク描画した図 13 から，この 2 つの力のある芸能プロダクションだけが，特定のテレビ局と相互に依存度の高い関係性を有していることが分かった．

表 3 テレビ局ごとの番組の分類

	ドラマ	バラエティー	歌番組
NHK	10	40	6
TBS	7	57	4
テレ朝	14	91	3
テレ東	9	66	2
フジ	9	129	5
日テレ	8	94	1

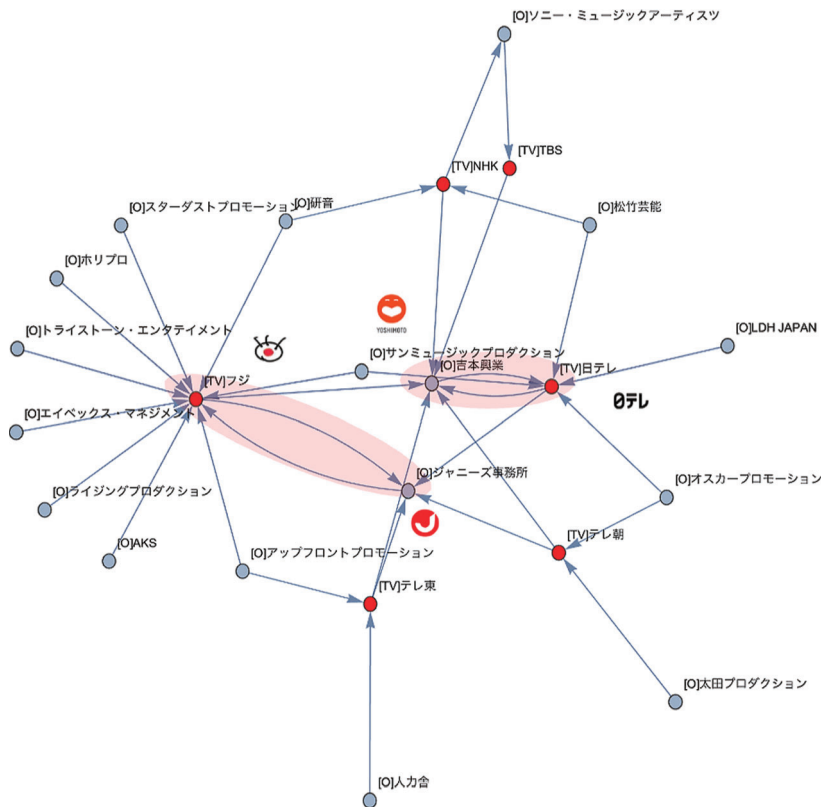


図 13 テレビ局と芸能事務所間の方向的タレント依存関係ネットワーク

つまり、ジャニーズと特定のテレビ局（フジテレビ）との依存関係に関する第3の仮説は支持されるとともに、吉本興業と日本テレビの相互依存関係も確認できた。また、4つ目の仮説の妥当性に関しては、「芸能界では日本テレビとフジテレビの熾烈な競争が見られる」という部分は支持されるが、「ジャニーズタレントの『争奪戦』が見られる」の部分は支持されない。日本テレビは、ある意味で他の芸能事務所によって「棲み分け」を行い、ジャニーズタレント依存という状態にはないからである。ただし、他方において、日本テレビは報道番組でジャニーズタレントを使うという「新手法」を繰り出していることも考慮しておく必要がある。

4. ジャニーズ系タレントは群れているのか？

ジャニーズ系タレントはそもそもグループで出演することが多いが、個別メンバーでも様々なジャンルの多くの番組に出演している。したがって番組を通じて他の所属事務所タレントとの共演よりも、圧倒的に身内のタレントとの共演が多くなると考えられる。ネットワーク分析用語で言えば、彼らは凝集的下位集団を形成し、セグレゲーション（分離）の度合いの高いクラスターを形成して

いると仮定できる。そこで最後に、第5の仮説である「ジャニーズ・タレントは、他の芸能プロダクションに比べてジャニーズ・タレントと同じ番組で共演しやすい」傾向を測定し、その仮説の妥当性を検証したい。

社会学において存在感を増している社会ネットワーク分析は、ジンメル以来の正当な（形式）社会学の思想と理論を継承し、（相互的）社会的行為の結果としての社会構造の形成を社会集団に注目し、関係主義的に研究する数理・計量パラダイムである（金光, 2003; Rawling, Smith, Moody and McFarland, 2023）。社会ネットワーク分析では、中心性分析とともに、社会集団の下位集団間の関係性に注目し、凝集性、分離度を測定する手法がいくつか開発されてきた。それがクリークの確定の基礎となるからである。代表的な尺度は以下の2つである。

1) Krackhardt and Stern (1988) によって提案された E-I Index は組織ネットワーク分析においてよく使用される下位集団の分離度尺度で、 lnE_c をクラスター＝下位集団 c の内部のエッジ数、 ExE_c をクラスター c の外部のエッジ数としたとき、

$$EI_c = \frac{ExE_c - lnE_c}{ExE_c + lnE_c} \quad (1)$$

で測定される。この尺度での値は全て内部結合である場合、 -1 の値を取り、全て外部結合である場合、 1 の値を取る。この尺度は、重み付きのネットワークでも使用できるので便利である。マイナスの値は外部結合より内部結合が卓越していることを示している。

2) Fershtman and Chen (1993) と Fershtman (1997) の定式化した SMI (Segregation Matrix Index 分離指数) は、 N 個のノードから構成される有向グラフにおいて、クリーク c のノード数を N_c 、クラスター c から送信される割合を p_c 、クラスター外に送信される割合を p_r とした場合、各クラスターに対して式 (3) のように測定される。

$$SMI_c = \frac{p_c - p_r}{p_c + p_r} \quad (1)$$

$$p_c = \frac{lnE_c}{N_c(N-1)} \quad (2)$$

$$p_r = \frac{ExE_c}{N_c(N-N_c)} \quad (3)$$

SMI の値は、全て内部結合である場合、 -1 の値を取り、全て外部結合である場合、 1 の値を取る。マイナスの値は外部結合より内部結合が卓越していることを示している。しかし、この尺度では、タレントが多くのタレントと複数共演している場合を表現する「重み」は考慮されないという欠点

がある。

全体の芸能界ネットワークから、大手芸能プロダクション 19 社に関して部分ネットワークを図 14 のように抽出した。この部分ネットワークには、全体の約 42% のノード（タレント）と 43% のエッジ（タレントの番組への出演）が集中している。次に、タレント×番組の二部グラフからタレント側に投射したタレント間の共演結合ネットワークを生成し（図 14）、その重みつきネットワークの隣接行列から E-I Index と SMI を測定した（表 4）¹⁰⁾。

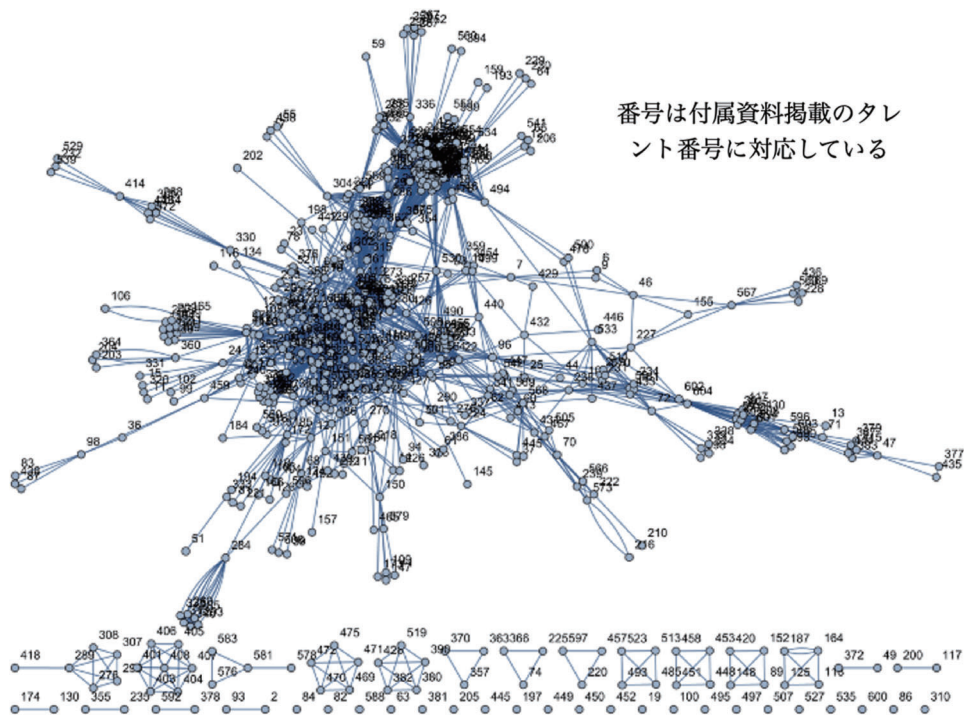


図 14 大手芸能プロダクションのタレント間共演結合ネットワーク

10) このネットワークは有向グラフではないが、相互化された意味で「有向グラフ」とも考えられる。なお、この指標は無向グラフにおいても問題なく適用できる。この指標の問題点として、下位集団の規模の影響を受けるという点があり、同じ規模のネットワークだけを比較する必要があることは注意を要する。

表4 大手19芸能プロダクションの分離指数 (IE-Index でソート)

	芸能事務所	出演タレント数	SMI	IEIndex
1	[0] ジャニーズ事務所	103	0.696077	-0.0509804
2	[0] 吉本興業	111	0.55195	0.140903
3	[0] LDH JAPAN	29	0.691468	0.585965
4	[0] 松竹芸能	15	0.823322	0.612903
5	[0] ソニー・ミュージックアーティスツ	33	0.6	0.640449
6	[0] ワタナベエンターテインメント	38	0.508402	0.672131
7	[0] 人力舎	15	0.763672	0.704225
8	[0] 太田プロダクション	19	0.689436	0.718593
9	[0] ホリプロ	52	0.270312	0.728395
10	[0] オスカープロモーション	21	0.648064	0.728395
11	[0] ライジングプロダクション	15	0.696861	0.769634
12	[0] アップフロントプロモーション	13	0.732703	0.771812
13	[0] 研音	19	0.550729	0.811765
14	[0] アミューズ	38	0.234065	0.813302
15	[0] スターダストプロモーション	38	0.165074	0.836257
16	[0] サンミュージックプロダクション	13	0.46247	0.897436
17	[0] AKS	14	0.404181	0.903297
18	[0] エイベックス・マネジメント	17	0.220504	0.91984
19	[0] トライストーン・エンタテイメント	14	0.108116	0.947826

送出タレント数が20人以下と少ない芸能事務所を除いて、ジャニーズ事務所のSMIは、約0.70と、同じ規模の吉本興業が0.55であるのと比較してかなり高い、つまり内部共演結合度が高いことが分かった。さらにE-I Indexで測定した場合では、唯一ジャニーズ事務所だけが内部凝集の卓越を示すマイナス値を取っていることは注目される¹¹⁾。

さらに隣接行列のマッピング図(図15)で見ると、中程に位置(250～353番)するジャニーズ事務所のタレントは濃い色で表されたように凝集的に結合していることを示している。

11) ジャニーズ系グループは、グループとしての番組出演においてはグループで、個人出演の場合には個人で別々にカウントしており、個人とグループを重複してカウントはしてはならず、この数字が「ジャニーズの集団性」によって「膨張」されていないことは指摘しておきたい。

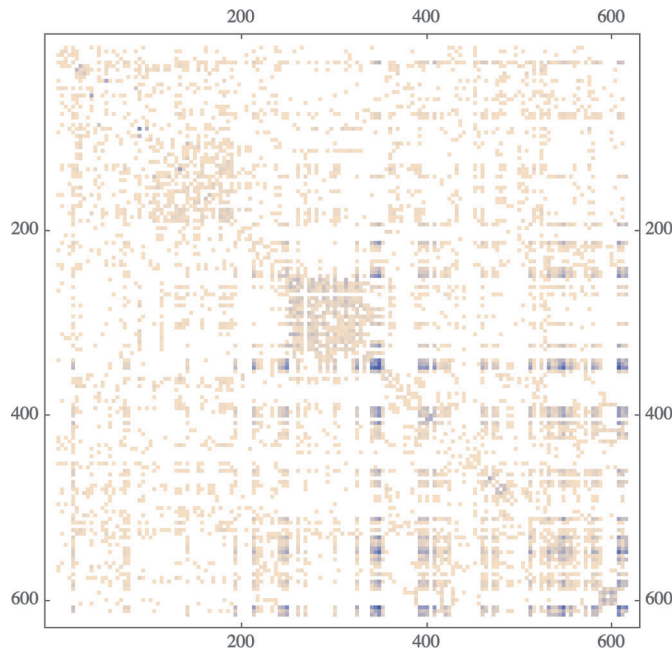


図 15 部分ネットワークの隣接行列の行列プロット図
注) 番号は付属資料掲載のタレント番号に対応している

したがって、この節の分析の結果、ジャニーズの内部共演結合傾向は明確に証明され、第5の仮説である「ジャニーズタレントは、他の芸能プロダクションに比べ同じ番組で共演しやすい」は支持される。ジャニーズタレントは抜群に群れやすいのである。

まとめにかえて

以上の分析から、ジャニーズ事件を生み出した＜界＞としての芸能界の「闇の構造」が計量分析によって「丸裸」にされた。メディア産業と芸能事務所の相互依存関係の科学的なエビデンスが初めて示された。このエビデンスは、サブカルチャー研究者、アイドル研究者やメディア研究者の多岐な評論やナラティブ、質的分析では決して得られない貴重なものである。

ジャニーズ問題が大きく展開してから1年半以上が経過し、世間ではジャニーズ問題の風化を懸念する声もある。しかし被害者の救済問題もまだまだ残されており、この問題は完全には終わっておらず、継続して調査されるべき問題である。また、タレントと芸能事務所をめぐる不均衡な力関係の問題も残されている。

今後の課題としては、ジャニー喜多川の性加害が明るみに出され、組織的な再編成が行われた直後の2023年の第3クールのデータによって芸能界がどのように変化したかを明らかにすることである。このことは日本の芸能文化発展のために欠かせない課題としてアカデミアが科学的に分析・検

証すべき作業であり、芸能界をめぐる研究を「アイドル研究」「ファンダム研究」のような「軽いテーマ」の「オタク学的な」研究に終わらせず、「権力構造分析」のような「重いテーマ」も扱う文化社会学に発展させるためにも欠かせない作業となるであろう。

謝辞

この研究の基となったデータは、ドラマと音楽番組に関して同志社大学の学生であった高橋佳乃さんによって収集されたものであるが、のちに京都産業大学現代社会学部・金光ゼミの西村知夏さんによってバラエティー番組を加え、改めて収集し直されたものである。この場において、この2人に感謝の意を表したい。

付記

論文投稿後の2024年年末に、公正取引委員会は今年4～11月、公取委が芸能事務所2628社を対象にアンケートの分析結果を公表した。ウェブ上で芸能人や事務所関係者ら計901人からの匿名も含む情報提供を受けたと報道されている（朝日新聞、2024年12月26日電子版）。そこでは芸能事務所とタレントの不均衡な関係性が指摘され、関係事業者団体に注意喚起を促している。また年末、年始には、週刊誌やネット、テレビではフジテレビ社員が関与したとの報道のある、元ジャニーズの中居正広をめぐる「女性トラブル問題」が大きな話題となり、フジテレビの第1回目の記者会見後の1月23日に中居正広は引退を表明した。この問題の真相解決が待たれる。この論文がテレビ局と芸能界の抱える構造的問題を科学的に洗い出すきっかけとなれば幸いである。

参考文献

〔論文・書籍〕

- Becker, H. (1982) *Art Worlds*, University of California Press. (後藤将之訳,『アート・ワールド』慶應義塾大学出版会, 2008年.)
- Bourdieu, P. (1980). *QUESTIONS DE SOCIOLOGIE*. Edition de Minuit. (田原音和監訳,『社会学の社会学』藤原書店, 1991年.)
- Bourdieu, P. avec Loïc J. D. Wacquant. (1992). *RÉSPONCES. Pour une anthropologie réflexive*. Edition de Seuil. (水島和則訳,『リフレクシヴ・ソシオロジーへの招待』藤原書店, 2007年.)
- Breiger, R. (1974) "The duality of persons and groups." *Social Forces*, vol.53 (2): pp181–190.
- Fershtman M and M. Chen (1993) "The segregation matrix: a new index for measuring sociometric segregation." *Megamot*, vol. 34: pp. 563–581.
- Fershtman M. (1997) "Cohesive group detection in a social network by the segregation matrix index." *Social Networks*,

vol.19: pp.193–207.

金光 奎（1994）『マスコミはなぜ権力に弱いのか』新日本出版社.

金光 淳（2003）『社会ネットワーク分析の基礎：社会的関係資本論にむけて』勁草書房.

Krackhardt D, Stern RN. (1988) “Informal Networks and Organizational Crises: An Experimental Simulation.” *Social Psychology Quarterly*, vol. 51: p123.

MATHEMATICA Version 14. 1（2024）Wolfram Research, Inc.

Rawling C. M., J. A. Smith, J. Moody, and D. A. McFarland（2023）*Network Analysis: Integrating Social Network Theory, Method, and Applications with R*. Cambridge University Press.

鹿砦社編集部編（2023）『ジャニーズ帝国 60 年の興亡』鹿砦社.

[番組]

NHK スペシャル「ジャニー喜多川 “アイドル帝国” の実像」, 2024 年 10 月 20 日放送.

付属資料：大手芸能プロダクションのタレントとID（617人）

21	[T]リヲ	106	[T]中川剛	209	[T]ニコロロ	313	[T]玉森裕史	417	[T]藤原史	521	[T]森田健作
22	[T]福澤	107	[T]井上聡	210	[T]片岡愛之助	314	[T]田代大貴	418	[T]鈴木美穂	522	[T]松本梨菜
23	[T]電流源	108	[T]吉村崇	211	[T]野野宮まほ	315	[T]川原葉結	419	[T]高橋あゆみ	523	[T]スキマちゃん
24	[T]反町隆史	107	[T]吉田歌	212	[T]キンタロー。	316	[T]知念侑希	420	[T]藤巻まふ	524	[T]小日向ゆい
25	[T]吉川雄大	109	[T]向井慧	213	[T]ソニン	317	[T]山崎洋菜	421	[T]ビッケブランカ	525	[T]カズレーザー
26	[T]渡沢寿明	110	[T]品川祐	214	[T]安田順	318	[T]山崎正晃	422	[T]IAAA	526	[T]カニંગグヤ山
27	[T]喜多川花	111	[T]山添寛	215	[T]星野源	319	[T]藤井俊樹	423	[T]HaveNiceDay!	527	[T]Hayashieノブユキ
28	[T]大谷花恋	112	[T]藤原夏	216	[T]遠藤遼	320	[T]藤田大貴	424	[T]Jhimo	528	[T]堀江貴文
29	[T]川口松太郎	113	[T]山田裕太	217	[T]三浦孝太	321	[T]三浦孝太	425	[T]三浦孝太	529	[T]石橋静香
30	[T]成海璃子	114	[T]藤井香	218	[T]中村ヒメ	322	[T]原田泰雄	426	[T]矢吹暁	530	[T]土屋大鳳
31	[T]藤森あや	115	[T]尾崎楓	219	[T]中田青澄	323	[T]藤田大誠	427	[T]本田真央	531	[T]小峠太一
32	[T]沢村一樹	116	[T]尾花健	220	[T]津波紗央	324	[T]飯沼一也	428	[T]林達也	532	[T]岡崎悠希
33	[T]瀬戸利樹	117	[T]桃亀奴	221	[T]堀田真由	325	[T]藤田哲也	429	[T]山瀬川美	533	[T]矢本悠馬
34	[T]片瀬陽菜	118	[T]橋本直	222	[T]大谷亮介	326	[T]長谷川川	430	[T]藤原理	534	[T]石丸幹二
35	[T]矢吹穂香	119	[T]田村亮	223	[T]宮本浩次	327	[T]岡ジニー	431	[T]高加瀬	535	[T]橋本玲奈
36	[T]堀江貴文	120	[T]田村友	224	[T]山崎大樹	328	[T]藤原啓祐	432	[T]中川大志	537	[T]西崎カナ
37	[T]山崎大樹	121	[T]山崎洋	225	[T]小倉久貴	329	[T]藤原大雄也	433	[T]中村大志	537	[T]山本浩貴
38	[T]山崎大樹	122	[T]藤井隆	226	[T]小関大	330	[T]藤原大雄也	434	[T]藤原大雄也	537	[T]山本浩貴
39	[T]津田まこと	123	[T]藤原遼	227	[T]菅田将	331	[T]藤原大雄也	435	[T]藤原大雄	539	[T]黒崎結菜
40	[T]渡辺謙	124	[T]岡寛平	228	[T]山本良枝	332	[T]高橋孝	436	[T]佐野太	540	[T]ビニー瀬
41	[T]矢吹穂	125	[T]藤和弘	229	[T]平岡大祐	333	[T]高橋大	437	[T]北川景子	541	[T]二宮さゆり
42	[T]今野浩	126	[T]ユースケ	230	[T]岡田祐	334	[T]藤井真紀	438	[T]藤井真紀	542	[T]国生さとし
43	[T]光岡雄三	127	[T]ロッシー	231	[T]川村創	335	[T]二宮さゆり	439	[T]山口もえ	543	[T]木村カエリ
44	[T]児嶋一哉	128	[T]中川礼二	232	[T]下塚優	336	[T]山ノ内秋彦	440	[T]岡田啓生	544	[T]黒崎ちさ子
45	[T]津波武志	129	[T]田村友	233	[T]藤原健	337	[T]山ノ内一	441	[T]市川春子	545	[T]電氣グルーブ
46	[T]小嶋花恋	130	[T]小嶋花恋	234	[T]藤原大	338	[T]藤原大	442	[T]藤原大	546	[T]ジェイ・カズ
47	[T]山崎弘也	131	[T]山崎洋	235	[T]山崎洋	339	[T]山崎洋	443	[T]山崎洋	547	[T]ジェイ・カズ
48	[T]藤原大	132	[T]山崎洋	236	[T]山崎洋	340	[T]山崎洋	444	[T]山崎洋	548	[T]藤原大
49	[T]角田真	133	[T]山崎洋	237	[T]山崎洋	341	[T]山崎洋	445	[T]山崎洋	549	[T]藤原大
50	[T]藤本明	134	[T]山崎洋	238	[T]山崎洋	342	[T]山崎洋	446	[T]山崎洋	550	[T]藤原大
51	[T]藤原大	135	[T]山崎洋	239	[T]山崎洋	343	[T]山崎洋	447	[T]山崎洋	551	[T]藤原大
52	[T]山崎洋	136	[T]山崎洋	240	[T]山崎洋	344	[T]山崎洋	448	[T]山崎洋	552	[T]藤原大
53	[T]山崎洋	137	[T]山崎洋	241	[T]山崎洋	345	[T]山崎洋	449	[T]山崎洋	553	[T]藤原大
54	[T]山崎洋	138	[T]山崎洋	242	[T]山崎洋	346	[T]山崎洋	450	[T]山崎洋	554	[T]藤原大
55	[T]山崎洋	139	[T]山崎洋	243	[T]山崎洋	347	[T]山崎洋	451	[T]山崎洋	555	[T]藤原大
56	[T]山崎洋	140	[T]山崎洋	244	[T]山崎洋	348	[T]山崎洋	452	[T]山崎洋	556	[T]藤原大
57	[T]山崎洋	141	[T]山崎洋	245	[T]山崎洋	349	[T]山崎洋	453	[T]山崎洋	557	[T]藤原大
58	[T]山崎洋	142	[T]山崎洋	246	[T]山崎洋	350	[T]山崎洋	454	[T]山崎洋	558	[T]藤原大
59	[T]山崎洋	143	[T]山崎洋	247	[T]山崎洋	351	[T]山崎洋	455	[T]山崎洋	559	[T]藤原大
60	[T]山崎洋	144	[T]山崎洋	248	[T]山崎洋	352	[T]山崎洋	456	[T]山崎洋	560	[T]藤原大
61	[T]山崎洋	145	[T]山崎洋	249	[T]山崎洋	353	[T]山崎洋	457	[T]山崎洋	561	[T]藤原大
62	[T]山崎洋	146	[T]山崎洋	250	[T]山崎洋	354	[T]山崎洋	458	[T]山崎洋	562	[T]藤原大
63	[T]山崎洋	147	[T]山崎洋	251	[T]山崎洋	355	[T]山崎洋	459	[T]山崎洋	563	[T]藤原大
64	[T]山崎洋	148	[T]山崎洋	252	[T]山崎洋	356	[T]山崎洋	460	[T]山崎洋	564	[T]藤原大
65	[T]山崎洋	149	[T]山崎洋	253	[T]山崎洋	357	[T]山崎洋	461	[T]山崎洋	565	[T]藤原大
66	[T]山崎洋	150	[T]山崎洋	254	[T]山崎洋	358	[T]山崎洋	462	[T]山崎洋	566	[T]藤原大
67	[T]山崎洋	151	[T]山崎洋	255	[T]山崎洋	359	[T]山崎洋	463	[T]山崎洋	567	[T]藤原大
68	[T]山崎洋	152	[T]山崎洋	256	[T]山崎洋	360	[T]山崎洋	464	[T]山崎洋	568	[T]藤原大
69	[T]山崎洋	153	[T]山崎洋	257	[T]山崎洋	361	[T]山崎洋	465	[T]山崎洋	569	[T]藤原大
70	[T]山崎洋	154	[T]山崎洋	258	[T]山崎洋	362	[T]山崎洋	466	[T]山崎洋	570	[T]藤原大
71	[T]山崎洋	155	[T]山崎洋	259	[T]山崎洋	363	[T]山崎洋	467	[T]山崎洋	571	[T]藤原大
72	[T]山崎洋	156	[T]山崎洋	260	[T]山崎洋	364	[T]山崎洋	468	[T]山崎洋	572	[T]藤原大
73	[T]山崎洋	157	[T]山崎洋	261	[T]山崎洋	365	[T]山崎洋	469	[T]山崎洋	573	[T]藤原大
74	[T]山崎洋	158	[T]山崎洋	262	[T]山崎洋	366	[T]山崎洋	470	[T]山崎洋	574	[T]藤原大
75	[T]山崎洋	159	[T]山崎洋	263	[T]山崎洋	367	[T]山崎洋	471	[T]山崎洋	575	[T]藤原大
76	[T]山崎洋	160	[T]山崎洋	264	[T]山崎洋	368	[T]山崎洋	472	[T]山崎洋	576	[T]藤原大
77	[T]山崎洋	161	[T]山崎洋	265	[T]山崎洋	369	[T]山崎洋	473	[T]山崎洋	577	[T]藤原大
78	[T]山崎洋	162	[T]山崎洋	266	[T]山崎洋	370	[T]山崎洋	474	[T]山崎洋	578	[T]藤原大
79	[T]山崎洋	163	[T]山崎洋	267	[T]山崎洋	371	[T]山崎洋	475	[T]山崎洋	579	[T]藤原大
80	[T]山崎洋	164	[T]山崎洋	268	[T]山崎洋	372	[T]山崎洋	476	[T]山崎洋	580	[T]藤原大
81	[T]山崎洋	165	[T]山崎洋	269	[T]山崎洋	373	[T]山崎洋	477	[T]山崎洋	581	[T]藤原大
82	[T]山崎洋	166	[T]山崎洋	270	[T]山崎洋	374	[T]山崎洋	478	[T]山崎洋	582	[T]藤原大
83	[T]山崎洋	167	[T]山崎洋	271	[T]山崎洋	375	[T]山崎洋	479	[T]山崎洋	583	[T]藤原大
84	[T]山崎洋	168	[T]山崎洋	272	[T]山崎洋	376	[T]山崎洋	480	[T]山崎洋	584	[T]藤原大
85	[T]山崎洋	169	[T]山崎洋	273	[T]山崎洋	377	[T]山崎洋	481	[T]山崎洋	585	[T]藤原大
86	[T]山崎洋	170	[T]山崎洋	274	[T]山崎洋	378	[T]山崎洋	482	[T]山崎洋	586	[T]藤原大
87	[T]山崎洋	171	[T]山崎洋	275	[T]山崎洋	379	[T]山崎洋	483	[T]山崎洋	587	[T]藤原大
88	[T]山崎洋	172	[T]山崎洋	276	[T]山崎洋	380	[T]山崎洋	484	[T]山崎洋	588	[T]藤原大
89	[T]山崎洋	173	[T]山崎洋	277	[T]山崎洋	381	[T]山崎洋	485	[T]山崎洋	589	[T]藤原大
90	[T]山崎洋	174	[T]山崎洋	278	[T]山崎洋	382	[T]山崎洋	486	[T]山崎洋	590	[T]藤原大
91	[T]山崎洋	175	[T]山崎洋	279	[T]山崎洋	383	[T]山崎洋	487	[T]山崎洋	591	[T]藤原大
92	[T]山崎洋	176	[T]山崎洋	280	[T]山崎洋	384	[T]山崎洋	488	[T]山崎洋	592	[T]藤原大
93	[T]山崎洋	177	[T]山崎洋	281	[T]山崎洋	385	[T]山崎洋	489	[T]山崎洋	593	[T]藤原大
94	[T]山崎洋	178	[T]山崎洋	282	[T]山崎洋	386	[T]山崎洋	490	[T]山崎洋	594	[T]藤原大
95	[T]山崎洋	179	[T]山崎洋	283	[T]山崎洋	387	[T]山崎洋	491	[T]山崎洋	595	[T]藤原大
96	[T]山崎洋	180	[T]山崎洋	284	[T]山崎洋	388	[T]山崎洋	492	[T]山崎洋	596	[T]藤原大
97	[T]山崎洋	181	[T]山崎洋	285	[T]山崎洋	389	[T]山崎洋	493	[T]山崎洋	597	[T]藤原大
98	[T]山崎洋	182	[T]山崎洋	286	[T]山崎洋	390	[T]山崎洋	494	[T]山崎洋	598	[T]藤原大
99	[T]山崎洋	183	[T]山崎洋	287	[T]山崎洋	391	[T]山崎洋	495	[T]山崎洋	599	[T]藤原大
100	[T]山崎洋	184	[T]山崎洋	288	[T]山崎洋	392	[T]山崎洋	496	[T]山崎洋	600	[T]藤原大
101	[T]山崎洋	185	[T]山崎洋	289	[T]山崎洋	393	[T]山崎洋	497	[T]山崎洋	601	[T]藤原大
102	[T]山崎洋	186	[T]山崎洋	290	[T]山崎洋	394	[T]山崎洋	498	[T]山崎洋	602	[T]藤原大
103	[T]山崎洋	187	[T]山崎洋	291	[T]山崎洋	395	[T]山崎洋	499	[T]山崎洋	603	[T]藤原大
104	[T]山崎洋	188	[T]山崎洋	292	[T]山崎洋	396	[T]山崎洋	500	[T]山崎洋	604	[T]藤原大
105	[T]山崎洋	189	[T]山崎洋	293	[T]山崎洋	397	[T]山崎洋	501	[T]山崎洋	605	[T]藤原大
106	[T]山崎洋	190	[T]山崎洋	294	[T]山崎洋	398	[T]山崎洋	502	[T]山崎洋	606	[T]藤原大
107	[T]山崎洋	191	[T]山崎洋	295	[T]山崎洋	399	[T]山崎洋	503	[T]山崎洋	607	[T]藤原大
108	[T]山崎洋	192	[T]山崎洋	296	[T]山崎洋	400	[T]山崎洋	504	[T]山崎洋	608	[T]藤原大
109	[T]山崎洋	193	[T]山崎洋	297	[T]山崎洋	401	[T]山崎洋	505	[T]山崎洋	609	[T]藤原大
110	[T]山崎洋	194	[T]山崎洋	298	[T]山崎洋	402	[T]山崎洋	506	[T]山崎洋	610	[T]藤原大
111	[T]山崎洋	195	[T]山崎洋	299	[T]山崎洋	403	[T]山崎洋	507	[T]山崎洋	611	[T]藤原大
112	[T]山崎洋	196	[T]山崎洋	300	[T]山崎洋	404	[T]山崎洋	508	[T]山崎洋	612	[T]藤原大
113	[T]山崎洋	197	[T]山崎洋	301	[T]山崎洋	405	[T]山崎洋	509	[T]山崎洋	613	[T]藤原大
114	[T]山崎洋	198	[T]山崎洋	302	[T]山崎洋	406	[T]山崎洋	510	[T]山崎洋	614	[T]藤原大
115	[T]山崎洋	199	[T]山崎洋	303	[T]山崎洋	407	[T]山崎洋	511	[T]山崎洋	615	[T]藤原大
116	[T]山崎洋	200	[T]山崎洋	304	[T]山崎洋	408	[T]山崎洋	512	[T]山崎洋	616	[T]藤原大
117	[T]山崎洋	201	[T]山崎洋	305	[T]山崎洋	409	[T]山崎洋	513	[T]山崎洋	617	[T]藤原大
118	[T]山崎洋	202	[T]山崎洋	306	[T]山崎洋	410	[T]山崎洋	514	[T]山崎洋	618	[T]藤原大
119	[T]山崎洋	203	[T]山崎洋	307	[T]山崎洋	411	[T]山崎洋	515	[T]山崎洋	619	[T]藤原大
120	[T]山崎洋	204	[T]山崎洋	308	[T]山崎洋	412	[T]山崎洋	516	[T]山崎洋	620	[T]藤原大
121	[T]山崎洋	205	[T]山崎洋	309	[T]山崎洋	413	[T]山崎洋	517	[T]山崎洋	621	[T]藤原大
122	[T]山崎洋	206	[T]山崎洋	310	[T]山崎洋	414	[T]山崎洋	518	[T]山崎洋	622	[T]藤原大
123	[T]山崎洋	207	[T]山崎洋	311	[T]山崎洋	415	[T]山崎洋	519	[T]山崎洋	623	[T]藤原大
124	[T]山崎洋	208	[T]山崎洋	312	[T]山崎洋	416	[T]山崎洋	520	[T]山崎洋	624	[T]藤原大
125	[T]山崎洋	209	[T]山崎洋	313	[T]山崎洋	417	[T]山崎洋	521	[T]山崎洋	625	[T]藤原大
126	[T]山崎洋	210	[T]山崎洋	314	[T]山崎洋	418	[T]山崎洋	522	[T]山崎洋	626	[T]藤原大
127	[T]山崎洋	211	[T]山崎洋	315	[T]山崎洋	419	[T]山崎洋	523	[T]山崎洋	627	[T]藤原大
128	[T]山崎洋	212	[T]山崎洋	316	[T]山崎洋	420	[T]山崎洋	524	[T]山崎洋	628	[T]藤原大
129	[T]山崎洋	213	[T]山崎洋	317	[T]山崎洋	421	[T]山崎洋	525	[T]山崎洋	629	[T]藤原大
130	[T]山崎洋	214	[T]山崎洋	318	[T]山崎洋	422	[T]山崎洋	526	[T]山崎洋	630	[T]藤原大
131	[T]山崎洋	215									

Analyzing the hidden corporate structures behind J-Pop sex abuse: A social network study of the Japanese entertainment industry

Jun KANAMITSU

ABSTRACT

The hidden corporate relationships between talent agencies and major TV networks have been uncovered using an “open quad-partite graph model,” which consists of three bipartite graphs (affiliation networks). The first graph connects 1,463 talents with 985 talent agencies, the second connects those same 1,463 talents to 76 TV programs, and the third links the 76 TV programs to six major TV networks. The data on TV programming and talent agencies was collected for the third quarter of music shows and dramas in 2018, a period during which Johnny Kitagawa, who died in 2019 and was a known sexual abuser of boys, was still alive.

Japan, the world’s second-largest entertainment and music market, is characterized by a multitude of talents and their agencies competing for appearances on national TV networks. In this environment, the management structure is more traditional compared to the more modern Korean system, where top stars have a greater international presence. Johnny Kitagawa was regarded as the king of the Japanese entertainment industry, and TV networks heavily relied on his agency, Johnny & Associates, for success. Despite rumors surrounding Kitagawa’s abusive behavior circulating in gossip magazines, major Japanese newspapers affiliated with TV networks, including NHK, the public broadcasting network, remained silent on the issue. It wasn’t until the BBC aired a documentary in early 2023 titled *Predator: The Secret Scandal of J-Pop* that Kitagawa’s sexual abuse of boys received significant media attention in Japan, leading to the dissolution of Johnny & Associates and a change in its corporate name and logo.

In this study, the three bipartite graphs were merged into one comprehensive graph consisting of 1,462 nodes and 2,432 edges, which was then analyzed using social network methods. The significant findings are as follows: 1) The dominance of Johnny & Associates is evident, with strong connections to Fuji Television Network, which excels in music shows and dramas. Additionally, strong reciprocal ties are noted between Yoshimoto and Nihon Television Network; 2) A high degree of segregation among talents affiliated with Johnny & Associates is observed, indicating that these talents frequently co-appear on the same TV programs more than talents from other agencies.

